

<改訂版>

昭和学院短期大学
2021年度 大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム公開講座

江戸時代の江ノ島詣の流行

東海道を逸れて鎌倉に入る場合、江ノ島は必ず通過点となります。そのため、鎌倉時代以降たびたび文学作品にも書き留められています。しかし、江ノ島詣が一大ブームとなるのは江戸時代であり、その端緒となるのが水戸光圀の参詣と考えられます。本講座では、江ノ島を描いた古典文学作品を紹介し、光圀の目にした江ノ島を旅してみましょう。

〔日 程〕2022 年 1 月 22 日(土)

〔場 所〕昭和学院短期大学 本館304教室

〔時 間〕13:30~15:00

〔講 師〕佐藤 智広 昭和学院短期大学教授

1992 年 筑波大学大学院修士課程教育研究科修了

1996 年 筑波大学大学院博士課程文芸言語研究科退学
修士(教育学)、修士(文学)

1996 年 昭和学院短期大学専任講師、

以後、助教授(准教授)を経て現職

独立行政法人国文学研究資料館調査員、

青山学院大学・大東文化大学・聖徳大学等非常勤講師

荒川区職員ビジネスカレッジ講師などを歴任

主著『古典と歩く古都鎌倉』(新典社、2014 年)

『和歌文学大系 64 瓊玉和歌集ほか』(明治書院、2014 年)

『長門本平家物語自立語索引』(勉誠出版、2009 年)など



〔定 員〕 60名

〔資 料 代〕 500円/回 ※ 資料代は当日受付にてお支払いください。

〔申 込 み〕 裏面の「受講申込書」にてお申し込みください。